ハクチョウ救出

４月に入りやっと雪が消え、久しぶりに田んぼの土が見えてきた。
渡りの途中のハクチョウが、中継と食事のために降り立ちました。数百羽単位で何か所にも見られる白い塊は、春を感じさせる風物詩です。
今年は豪雪で、例年よりも２週間から１月も遅い渡りです。しかし、のどかな眺めのなかでハクチョウにとっては思いもよらぬ事故が発生していたのです。
４月２日、神宮寺大浦沼近くの田んぼの水路で、飛び立てない一羽のハクチョウが見つかりました。U字溝の水路は幅が狭く、深さもハクチョウの背丈ほどで、自力で飛びあがることは出来ません。
野鳥仲間のＭ君と二人で水路に入り、両側から進みながら、抱きかかえるようにして田んぼに掬い上げてやった。直ぐに飛び上がる元気がないのか、２００メートル離れた大浦沼に向って歩いた。
沼に入ったら水草などの食べ物もあるし、時間がたったら大丈夫でしょう。

４月４日、深い水路から抜け出せないで困っている。

それから２日後、田んぼの見回りをしていた人が、水路の中にハクチョウが見つかったと連絡があった。
またしても深いU字溝にはまり、抜け出すことが出来ない状態です。
ここの水路は、中に入ったら肩ほどの深さであった。再び両側から挟み撃ちにして、抱きかかえて田んぼに上げてやった。
周辺は広い田んぼで、３００メートルほど離れた場所に広い水路があるだけです。ハクチョウを歩かせながら、水路まで誘導しようとしたがハクチョウは歩きを止め、座り込んでしまった。かなり衰弱していたのでしょう。
やむを得ずハクチョウを抱きかかえて水路まで運び、水面に放してやったら自力でスイスイと下流に向って泳いでいった。

二人で両側から進み、抱き上げて田んぼに上げてやった。

２日後の４月６日、同じ水路でまた見つかった。今度は３羽も。

２度あることは３度あると言われるが。

更に２日後の４月６日、いつものウオーキングコースを変更して、農道を歩くことにした。何と、２日前に救助した同じ水路の中に、ハクチョウの頭が見えるではないか。しかも３羽も。

なぜ同じ水路なのか不思議であった。現場を確認すると、水路の最下流部は道路の下を潜って川（大排水路）になっていた。

しかし、川への出口は流れを調整するための逆流防止板で塞がれ、逃げ道はありません。

これでは水路から抜け出すことが出来ません。防止板はステンレス製で大人がやっと上げられるくらいの重さである。

水路の下流部は道路の下を通り、川に通じている。

最下流部の逆流防止板。かなり重かった。

蓋を９０度上げ２本の棒で固定した。

３００メートルほど離れた水路に閉じ込められたハクチョウ３羽を、ここに誘導することに。ハクチョウは深い水路の中をトコトコとゆっくり歩きながら、下流に進んでいった。

やっと最下流まで近づいたが、なかなか進みません。

先頭の１羽がトンネルの先に見えた明るい出口に気付いたのでしょう。一気に走り出して大排水路に飛び込んでいった。続く２羽も喜ぶように狭い水路から飛び出した。

上流部からそっと誘導中。

もう少しだよ。この後一旦立ち止まった。

ハクチョウは今まで、この水路を何回も行ったり来たりしながら、出口を探していたのでしょう。

しかし、トンネルの先は扉で塞がれ真っ暗だったのです。ここまで誘導されても行き止まりと思っていたのでしょう。

やっと明るく広い水路に出ることになったハクチョウたち。３羽は下流に向かいスイスイと泳ぎ、川幅が広くなったところで一気に飛び立って行った。怪我もなく元気な様子に一安心。

先頭を切って一目散に川に飛び込んだ。

後から２羽も走っていった。とても喜んでいるように見えた。

４月に入り３回目の救出となった。１０日ほど前までこのあたりの水田は雪が残っていて、水路を蓋のように覆っていた。ハクチョウは知らずにその上を歩いたところ、自らの重みで真下の水路に落ちてしまったのだろう。こうした事故はどこでもあると思われます。

どこかの水路に取り残されていないか、農道を通る度に水路の中を眺めています。

広い世界に出た喜びが伝わってくるようだった。

周辺は溶けても、水路を覆う雪はまだ残っている。この上を歩いたのでしょう。